日赤新労

昭和61年
5月20日
発行
第112号

発行所
日本赤十字新労働組合連合会
（日赤新労）
東京都港区浜松町2-2-14
KIビル802
TEL(03)433-3028
発行責任者
鹿島　順

綱領

1. 吾々は、社会正義に立脚した良識ある労働運動を通じて吾々の権利を守り、生活の安定と向上をはかる。
2. 吾々は、常に暴力と独裁を排し自由にして明朗なる民主的労働組合としての健全なる発展を期する。
3. 吾々は、赤十字の民主化と近代化を促進することによって、その人道的任務の達成に寄与する。

5月4～5日・秋田県男鹿市「男鹿桜島荘」
昭和61年度 第1回中央委員会を開催

本年度ベアの早期決着めざし
強力な自主的交渉展開

岩礁と断崖の織りなす雄大な名勝、男鹿半島「男鹿桜島荘」において、中央委員、オブザーバー、本部役員の出席の下に、本年度第一回中央委員会が開催された。六十一年度ベアの早期解決を中心に、夏期手当等について活発な審議が行なわれた。

☆専門部会を開催

例年第一回中央委員会時に開催される専門部会が、本年度も第一日目の午後三時より五時まで約二時間にわたり開かれ、組織、教宣、調査、婦人の各部で、それぞれ熱心に討議検討された。

各専門部の本年度活動の方針及び決定事項は次のとおりである。

◎組織部会

委員名←第一ブロック第二ブロック吉田仁（浜松日赤）／第三ブロック梅村正一（名二日赤）／第四ブロック、第五ブロック、第六ブロック渡辺邦明（筑前山田日赤）。

組織部においては、組織拡大のため、オルグ活動を通じ本部と各単組との連携を密にし、今後一層魅力ある組織として本年は次のことを、重点目標として拡大強化を進める。

一、各単組組織の内部強化に努める。

二、オルグ活動の強化。

①「躍進する日赤新労」パンフレットを活用し、組合員、新組合員のオルグ活動。

②各種研修活動強化。

組合の自覚を促し組織への関心を高めるとともに、組合活動への参加を積極的にするため研究会など。

◎教宣部会

❶幹部研修会の開催。

例年研修会は講師を招き、講演、質疑応答等を行なってきたが、出席幹部の構成（組合経験の長短）の関係から、共通のテーマで講演を行なうことには難点があると思われるので、本年度は討論会形式とし、テーマは定年制、週休二日制、その他となった。

また第二回のブロック会議でもこのテーマに沿って議論されるようお願いしたい。

❷初心者研修会について。

本年度は、日程の都合上、第二回の中央委員会と切離して行うことになった。

日程は、七月二十日～二十二日頃、場所は奥多摩、日光、伊豆、仙台周辺を予定し、最終決定は、本部に一任と決定した。

各単組では、経費や日程の都合もあるかと思われるが、出来る限り多くの新人を派遣されるよう特にお願いしたい。

◎調査部会

本年度の調査項目を決定するに当たり、本部、ブロック、単組の諸条項を討議の結果、本年度は、次の事項を調査することとなった。

❶血液センター採血車稼動状況並びに休日採血について。

❷天下り人事の実態について。

❸当直料について。

❹期末・勤強手当（夏期・年末）並びに年末年始手当について。

以上、四項目と決定し、報告書の送付方法についても、回収率百パーセントを目標とし、特に各ブロック担当の方の要請依頼を強化し、回収に当たる。

従って期日までに回収するため、ブロック代表担当者へ送付することとしたので各単組は、報告書を、代表担当者へお送り下さい。

ベア・夏期手当闘争の方針を決めた第1回中央委員会

61年度中央委員を決定（26名）

各ブロック代表担当者は次のとおり。

第一ブロック、早乙女正人（石巻日赤）／第二ブロック、羽根坂昌徳（茨城血セ）／第三ブロック、森一博（名一日赤）／第四ブロック、樹下成徳（大津日赤）／第五ブロック、青山圭一（岡山日赤）／第六ブロック、渡辺邦男（筑前山田日赤）

／以上の各氏でありますが、本年度調査依頼人文書発送は、一～三と四の夏期については七月二十日までに、また、四の年末並びに年末年始手当については、翌年一月二十日までに各単組へ送付致しますので、各単組の皆様方のご協力をお願いします。

◎婦人部会

本年度の婦人部代表者会議は、次の内容で行なわれることになった。

❶部会（病院、センター、支部・乳児院）。

❷男女雇用均等法の、その後の経過について。

❸レク・親睦会。場所については、千葉、もしくは伊香保。日程は十月十九日～二十一日頃の予定、多くの方のご出席をお待ちしています。

中央委員会議事

開会宣言、資格審査成立確認の後に、議長団選出に移り、議長に渡辺邦男氏（筑前山田日赤）、副議長に赤坂義悦氏（盛岡日赤）、書記に杉江和明氏（太田原日赤）の三氏を選出し、議事次第に従い進行した。

冒頭に川出中央執行委員長の挨拶があり、その後、組織、教宣、調査、婦人の各部より前日の各専門部報告があり、続いて定期大会以降の一般経過報告が行なわれ、一部質問等の後、各事項について全員賛成をもって承認された。

〈審議事項〉

一、昭和六十一年度ベースアップについて

川出中央執行委員長より、これまでの本社交渉の経過及び、今後の状況について詳細な説明があった。

その概要は、本社は四月二十三日の団交で、六十一年度ベースアップは行うと確約したものの、数字、実施時期等については無回答であった。

その後に団交を行なった他組合は、本社回答を不満とし、中労委に提訴したが、その斡旋案は、労使協議の上決定することというだけで、やはり数字等は全く示されておらず何ら意味のないものであった。

我が新労は、あくまでも自主的解決と、人勧早期完全実施を目指し、人勧発表の前後に、強力かつ粘り強い交渉を重ね、早期完全実施を獲ちとる方針であり、また、五月下旬に本社社長に直接署名簿を提出し、強力に陳情する予定である。

以上の本部説明の後、慎重かつ活発な討議を経て、その方針等については、本部へ一任するということで決定した。

二、昭和六十一年度夏期手当について

二十二割プラス一律三万円で、要求日は五月十六日（大安）に統一要求で決定。

三、その他、（本部より要請）

❶定期全国大会終了後、速やかに単組定期大会を開き、出来るだけ早く代議員・中央委員等を決定し登録されるようお願いしたい。

❷中央委員は、必ずブロック会議に出席されたい。

（単組より要望）

❶本社より各施設へ配付してある黒表紙を購入して欲しいとの要請に、本部で調査したところ、製本するには、百冊で一万六千円、五十冊で三万一千円、五十冊以下で五万円（一冊あたり）程度ということなので、必要部数等調査し、今後本部で検討する。

❷福利厚生施設の増設について要望があったが、富士山荘の評価も上々なので、本部はこれからも全力をあげて交渉を続けることで了承された。

○印は代表委員委員、闘争委員を兼ねる。

〈第一ブロック（四名）〉

氏名	所属単組	担当
村田　一成	福島血セ	調査
〈第二ブロック（八名）〉		
上野紀代子	芳賀日赤	教宣
○杉江　和明	大田原日赤教宣（通信員）	教宣
相場　義之	足利日赤	組織
鈴木　繁	前橋日赤	調査
奥木　昭行	原町日赤	組織
吉田　仁	浜松日赤	組織
羽根坂昌徳	茨城血セ	調査
酒井　孝一	千葉血セ	調査
〈第三ブロック（六名）〉		
大日方つや子	飯山日赤	調査
森　一博	名二日赤	調査
○梅村　正一	名二日赤	組織
水谷　美恵	愛知血セ	教宣
武井　重晴	豊橋血セ（通信員）	教宣
寺西　春徳	愛知支部	組織
〈第四ブロック（一名）〉		
……単組大会開催後決定……		
〈第五ブロック（五名）〉		
○川島　環	鳥取日赤（通信員）	教宣
青山　圭一	岡山日赤	調査
紙本　哲治	三原日赤	組織
大森久仁子	岡山血セ	調査
中橋　祥隆	徳島血セ	教宣
〈第六ブロック（二名）〉		
○円田　静央	唐津日赤（通信員）	調査
渡辺　邦男	筑前山田日赤	組織　教宣

◇　◇

本年度ベアの早期決着を目指し、本社社長への署名簿提出を含め、強力なる自主的交渉を進める

岡山血セ・献血ルームの紹介

岡山血セ　角田恵子

昨年十二月十九日、岡山市表町に「献血ルームおもてまち」がオープンしました。

オープン以来、特に若年層に人気があり、気軽に立ち寄れる〝たまり場〟的存在になっているようです。高校生、大学生など友人を誘い合って献血に協力してくれています。誘われた友人がこんどは別の友人を連れて来るという風に、口コミで献血の輪が広がってゆくのでしょう。テレビ・ラジオの宣伝と同様、かなり強力な宣伝をしてくれています。

若者を意識しているため、明るく現代風な雰囲気の献血ルームですから、喫茶店や美容院と間違って入って来られる方もおられました。

室内には伝言板、ご意見箱、らくがき帳が備え付けてあります。この「らくがき帳」が評判良くて、開設以来20冊を超える勢いです。かなり手厳しいご意見に反省させられたり、思いがけないアイディアを提案してくださったり、その他、本当にさまざまな言葉で思いのままの事柄が書かれていて、職員も読むのを楽しみにしています。

一日が終了したら、赤ペンでひと言ご返事しています。何にでも返事があると嬉しいものですよね？

らくがき帳の内容を一部ご紹介します。

○一九八六年三月十八日

一人娘由香里の卒園式の日に偶然献血した。この血が見知らぬ誰かの役に立てば嬉しい。お前もこれから多くの人々と出会うであろうが、思いやりのある人に育って欲しい。ありがとうございました。（由香里ちゃん、10年後献血おねがいします）

○二月二十三日

今年は母と二人で来ました。BGMでとしちゃんの「Its B・A・D・」がかかってたので、うれしかったです。お菓子とコーヒーがもらえるので、また来よっと！（林製品の美女でした）

○二月二十八日

高校生でーす。今日は2・28 My Birth dayだよーん。まさかA型とは……　またきますっ！一年です。

○二月五日

還暦？すぎ。ケンケツなんて。若い頃の体のことを思うと夢のようです。母が生きてて聞いたら、さぞかしビックリすることでしょう。健康ってありがたいですね。N・M

○二月十五日

私も出身鹿児島なんです。南国育ちで元気百倍。私の血が流れた体はもちろん、元気百倍になるでしょう。病気なんて、ふきとばして早く回復へと向って下さい。島の看護学生

○二月十四日

今日はバレンタイン・デーだけど、誰もくれない！誰かチョコレートください。TEL下さい。特にGALお願いします。友達になりましょう。（こういう内容がけっこう多いのです）

○一月十九日

今日来ました。新聞でここのこと知って。やって来たのはいいけれど、比重足りなくなって……」献血手帳欲しい！

○一月十二日

犬も歩けば……献血にあたった！

宮野クンはRH(−)です（AB型）。献血ルームの前につっ立ってたら、誘われました。彼は血の気が多いので、一度に三人分ぐらい取ってやって欲しい。

私は今までB型だと十七年間信じてきたのに、今日献血をしてみるとナントA型でありました。今までの私は何だったのだろーか。親を恨むぜ！

○一月三日

お父さん献血する。　篠

○一月十五日

僕もついに成人。成人の日の思い出にと献血を・と・なんちゃって……。T・M

○三月二十九日

私は愛と奉仕をしました。ばい。

○四月十五日

私は針がきらいです。献血は大へんいいことです。いいことですが、あの針の中の穴の見える針、これは何とかならないのでしょうか。（針が太いのは、針の中で血が固まらないようにするためとか、いろいろ理由があるのですヨ）

うっ。貧血が……　俺の人生はもう長くないのか。畜生、目がかすんできやがった。さようなら。俺の人生〜！　by Amako（うそつきは きらいです。殺しても、してない顔して、そーゆーことと言うのは余りにもすーすーしいぞっ。友だちより）

○二月八日

今日は今年になって初めての献血です。ルームは明るくて、とても雰囲気のいいところですね。NSもとてもやさしくて印象的でした。（こういうほめてくれた人には＊丸をあげます。これからもガンバッテください）

○一月二十六日

宅浪生は職業欄に学生と書いてはいけないのだろうか（そうだ！そうだ！無職の欄に入れるべきだ）。そういえば、このノートは〝赤字〟でコメントが書かれているが、私は中学校時代の班ノートっていうのを思い出しました。

北から南から

イチゴ狩り撮影会へ

～名一日赤～

組合結成四十周年を記念してのクラブ行事「イチゴ狩り撮影会」が、四月十三日、写真部の主催で行われました。

メンバーは私を含む写真部員五名の他に、医事課の若手ギャル三人と富田婦長さん、そして中国から研修に来ていられる看護婦さんの陳さん、桂さんが参加されました。

当日、心配していた天候も快晴で、まったく快適なドライブ日よりとなりました。三台の乗用車に分乗して、都市高速から知多半島道路を経て南知多グリーンパレイのイチゴ園へと到着しました。入園時、多くの家族連れが来ていたので、さぞやイチゴを取るのに競争になるのではと早合点していたのですが、イチゴ園のビニールハウスにはいってみるとイチゴ畑の場所が指定されていたので、記念撮影をしながらの、のんびりとしたイチゴ狩りとなりました。

「こちらにある。あちらにまだ残っている」と、イチゴ畑を行ったり来たりしてイチゴをつまんだり、「ハイポーズ」と写真撮影を繰り返したりして和気あいあいのムードの中で過ごしました。

野外のバーベキュー場での昼食をすますと、次は南知多ビーチランドへ。海洋館の大水槽は海底のワセドスクリーンを見るようで、すばらしいものでした。イルカスタジアムのショーは小ども連れの客にまじって見学し、イルカに水を掛けられたりしましたが、しばし童心に返ぜて十分楽しみました。

甘いイチゴの味を満喫しました

今回、撮影会とはほど遠いものとなりましたが、中国の看護婦さんたちが加わるなどして、非常に家族的な催しになったと思います。

（名一日赤・写真部）

昭和六十一年度　日赤新労全国初心者研修会

場所・秩父多摩国立公園・奥多摩国民宿舎「鳩の巣荘」

福島の古びた温泉宿の紹介

ぬる湯温泉は磐梯朝日国立公園吾妻富士の東鹿標高九百二十㍍にあり、三万山林に囲まれ東方展けて福島市の平野を見下す。

春にはツツジ、シャクナゲの花が美しく、秋には紅葉の美しい所です。盛夏と言っても気温二十七度をこえることはほとんどなく、涼気満々です。

この温泉は非常にぬるく（三十二度〜三十五度）わかし湯とぬる湯を交互に入ると良い。泉質は酸性明ばん緑ばん泉、効用は眼病、脳病、火創傷、婦人病、痔等に特効あり難病の治癒例も多い。

営業期間は、四月二十九日（桜のつぼみがふくらみはじめるころ）から十一月中旬（紅葉が終るころ）まで、自炊もできます。料理は山菜を素材にした手作り料理です。

また交通はバスの便もあります。福島駅東口より、福島交通バス十時二十八分発、十四時二十八分発、土船行、水保下車（宿のマイクロバスが待っております）。タクシーですと四十分位（料金三千七百円位）。営業十年のベテラン運転手でさえ、今回初めてお客を運んだというぬる湯温泉へ一度は行ってみるのもよいでしょう。

老後保障問題を考える

「若さ」と「健康」ということは、我われの人生にとっては何物にも替え難い尊いものであり、また貴重なものではないでしょうか。

実は私も過去二十有余年の永い間、赤十字の職場に勤務してその職場を去って早や二年余になりますが、退職当時は何となくほっとした気持ちでしたが、それでも私生活というものはあらゆる面で不安がありました。最近は漸く平穏な生活が送れるようになりました。そしてまた、老後生活の実態にも多少は順応できるような毎日になってきました。このようなことは特に過去において勤め人であった方々はおそらく誰でも経験されることではないでしょうか。

現実に老後の生活に入っていろいろ考えてみると、私も微力ではあったが、現職時代には新労の組合運動に参加して、特にその運動方針の中に退職後のいわゆる老後保障の問題を常に掲げて、その実現に協力してきたが、そのうち企業年金としての日赤退職年金制度を約十二年の歳月をかけてねばり強く本社交渉を展開してきた結果、漸くにして去る昭和四十九年十一月実現させたのでありました。このことは組合員の皆さん方も充分ご承知のことであります。

そして現実にこの日赤年金の支給を受けて、厚生年金と加算して生活費に充当する立場になると、日赤年金の支給額は厚生年金に及ばないとはいうものの、この年金制度を実現させたことは組合運動の大きな成果であったと今更ながら感謝しているところであります。勿論、現在の日赤年金制度で充分だとは申し上げられないかも知れません。

そのために今なお組合運動方針の中に日赤年金制度の改善を掲げ、本社に対して強力に要求しておられるようですが、なかなか至難のこととは思いますが、できれば現実にその恩恵を受けている受給者の一人として、誠に勝手なことではありますが、最小限度の改善、即ち一部については厚生年金並みの制度まで前進させてもらえるようなら誠に有難いことであると考えられるものであり、何れ日赤を退職される方々は総てそうした恩恵に浴することになる訳であります。

とは申しましてもその他の改善すべき組合の要望が数多くあり、なかなか大変だとは思いますが、今後の新労組合運動にご期待申し上げると共に、最近私なりに老後問題の一部について感ずるままの愚言を申し上げた次第です。

（佐藤一男）